

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立新野小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	学力向上担当者を中心に全職員で	・主体的に学ぶ意欲づくり ・基礎・基本の徹底と活用問題の取り組み ・自分の考えを持ち、表現する力をつける(話す力・聞く力)	各学期末	・「7つの約束」の徹底 ・これまでの確認プリントの取り組み ・活用問題の取り組み ・授業改善サイクルの定着(参観・ふりかえり・指導助言・相互の参観・板書交流等) ・増の設定-自分の考えを持ち、伝え合うことや書くこと(まとめや振り返り、キーワード、条件を付ける) ・表現のスキル、文法事項の指導 ・日記や作文などいろいろな分を書く。 ・自主学習の習慣化(自学の紹介、見本) ・内容の工夫(復習や予習につながる工夫) ・家庭と連携しながらメディアコントロールの呼びかけ・取り組み	・基礎・基本の定着は目標80%
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	学力向上担当者を中心に全職員で	・家庭学習の定着と充実 ・自主学習の質を高める ・メディアコントロール	各学期末		・決められた家庭学習の提出100% ・自主学習の取り組み100% ・児童や家庭のメディアコントロールに対しての理解・協力を求め、積極的に取り組む家庭が増えるようにする。(目標100%)

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
<p>全校(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語・算数ともに全国平均と比べると正答率が低い。 ●国語については、「問題に思ったことに対する答えとして適切なものを選択すること」(県75.9、本校28.6)、「それぞれの資料がどのような目的で用いているか適切なものを選択すること」(県71.2、本校35.7)が苦手である。 ●算数については、「何秒後にゴンドラに乗ることができるかを求める式を書くこと」(県68.6、本校50.0)、「1800÷6は何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ」(県47.0、本校28.6)が苦手である。 <p>県(3～5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語・算数ともに全国平均と比べると正答率が低い。 ●国語については3・4・5年生とも「書くこと」に課題がある。指定された長さで書くこと(県66.1、本校41.2)や、指定された段落構成で文章を書くこと(県53.0、本校35.3)が苦手である。 ●算数については、3・4・5年生とも「図形」の領域に課題がある。5年生の「ひし形の作図ができる」(県67.8、本校29.4)が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭での学習時間(1時間以上)の児童の割合が42.8%であり、全国平均(66.1%)に比べて低い。 ●スマホの時間(3時間まで)の児童の割合が17.7%であり、全校平均(8.6%)に比べて高い。 ●「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合は71.4%で、全国平均81.2%に比べて低い。 <p>○テレビ等の視聴時間(平日2時間)の児童の割合は35.3%で、全国平均47.6%に比べて低い。</p> <p>○読書時間(1時間以上)の児童の割合は、28.5%で、全校平均18.3%に比べて高い。</p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合は85.7%で、全校平均68.0%よりも高い。</p>

成果
<p>○低学年からの読み聞かせや、読書の時間の確保により読書の習慣が定着してきている。</p> <p>○メディアコントロールの取り組みや呼びかけにより、テレビの視聴時間が短くなっている。</p> <p>○放課後の算数の補充学習などにより、下学年の基礎計算力がついてきている。</p> <p>○チャイムスタートが定着しつつあり、落ち着いて学習に取り組む姿が見られるようになってきている。</p> <p>○全教職員によるボイスシャワーにより、少しずつ落ち着いた雰囲気を感じられるようになった。</p>

課題
<p>○活用型の問題や記述式の問題を苦手としており、無回答が40%を超える問題がある。</p> <p>○「わからない。」「できそうにない。」といった問題はすぐにあきらめてしまい、手を付けられない児童が多い。</p> <p>○国語では、「書くこと」や初見の文を読んで問題を解くことに課題がある。</p> <p>○漢字の書く問題では、文章の中で使われている単語の意味を考え、どの漢字が当てはまるのかを正しく答えることが苦手である。</p> <p>○算数では計算・図形の領域を中心に、下学年での学習内容を想起し、活用することが苦手である。</p> <p>○望ましい生活習慣や学習習慣の定着(宿題・自主学習の質を高めていく)を図るために、保護者の意識を高めていく必要がある。</p>

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎学力の定着	来年度の学力調査までに	県平均を上回る	・岡山型スタンダードに基づいた授業づくり ・朝学習・放課後学習の時間に、 ・東書ライブラリーを活用した下学年の学習内容の復習。 ・振り返りプリント集を活用した活用型問題への取り組み。					
学習意欲の向上	2月のアンケート(アセス)実施までに	6月実施のアンケートよりも肯定的な回答が増える。	・心をつなぐボイスシャワー ・学習規律(チャイム着席)の徹底 ・どの職員も積極的に児童を勇気づける声掛けができるように継続して取り組んでいく。					
家庭学習の定着と充実	12月までに	家庭学習の目標時間の達成率80%	・家庭学習の内容の交流 ・各学年に応じた家庭学習の目標時間の達成率の向上 ・授業の終末における家庭学習への意欲付けや内容の例示					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組
<p>○自主学習の質の向上。</p> <p>○中学校へ続く児童が自主的に学習に取り組む学習習慣の確立。</p> <p>○授業改善に向けての校内研修の充実。</p> <p>○中学校の英語教諭による5・6年生への英語の授業。</p> <p>○中学校教諭による授業や行事の参観。 ○ボイスシャワーとしつけの取組の継続。</p>

保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○メディアコントロールの重要性の啓発。</p> <p>○「家庭学習の手引き」や学級通信等で家庭学習の習慣づけ。</p> <p>○心をつなぐボイスシャワーの取り組みへの理解と協力。</p>